

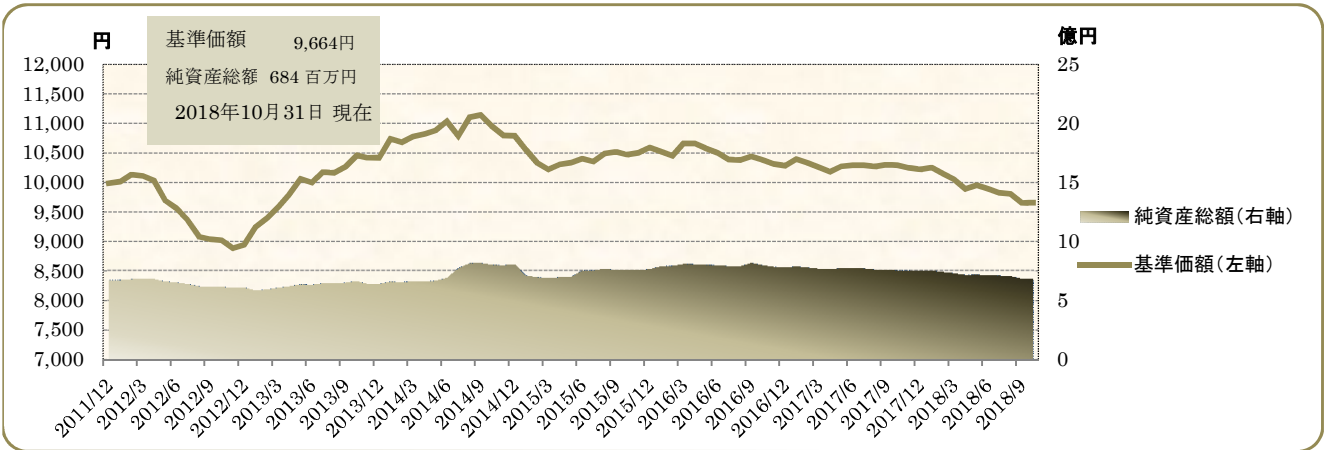
エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日 2018年10月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

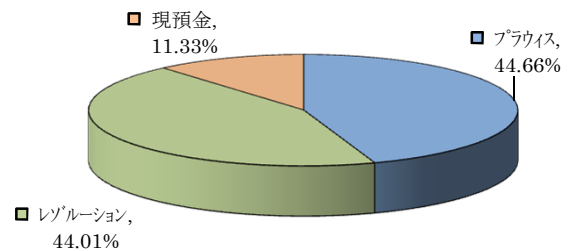
2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.35%	-1.02%	-0.98%	-1.61%	0.69%	-0.62%	-0.73%	-0.15%	-1.61%	0.15%			-5.43%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%	-0.31%	-0.65%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2018年10月31日	
基準価額:	9,664円	対前月比 14円
純資産総額:	684百万円	対前月比 +0.9百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-1.62%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.28%
設定来	ファンド	-3.36%
基準価額騰落率	TOPIX	127.50%
	日経平均	160.90%

投資対象ファンドへの資産配分 (2018年10月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	1.14%	-0.92%	-0.41%	-0.87%	2.06%	-0.77%	1.79%	1.25%	-0.94%	-0.34%			1.95%
レゾリューション	0.25%	-0.71%	-1.14%	-2.10%	0.05%	0.02%	-2.85%	-1.01%	-2.05%	1.32%			-7.98%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%	0.13%	3.82%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%	-0.22%	1.36%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS1」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFS1の基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

10月の株式相場は、日経平均で9.1%下落の21,920.46円、TOPIXで9.4%下落の1,646.12ptとなりました。米長期金利上昇によるリスクオフや中国経済減速への警戒が企業業績下方修正懸念に繋がり、株式市場を大きく押し下げました。

上旬は、ドル円が114円台の円安となったことや米国株の上昇などが好感されましたが、米10年国債利回りが7年ぶりの高水準となり警戒感から米国株が下落し、日本株も軟調な展開となりました。加えて、米半導体関連の軟調や中国経済減速懸念が重荷となりました。

中旬は、米国の長期金利上昇を背景に米株式市場がリスクオフに転じたことや、円高進行、安川電機下方修正などが重荷となり、製造業を中心に大幅調整となりました。米国株復調時には日本株も堅調となりましたが、中国株安から中国の景気減速懸念が台頭し、日本株は調整色を強めました。

下旬は、米国や中国の株式市場軟調を受けて大幅下落しました。グロース株の軟調が続き、特に小型株で軟調が目立ちました。月末にかけてはGPIFのリバランス買い観測や決算発表で過度の業績悪化懸念が和らぎ、また為替が円安傾向に転じたことなどからも買い戻し基調に転じました。

セクター別騰落率では、ゴム製品、空運、電力・ガス、その他金融、パルプ・紙が上位となり、海運、ガラス・土石製品、化学、鉄鋼、その他製品が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.85兆円と、活況の目安となる2兆円を24ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが7.1%の下落でTOPIXをアウトパフォームしましたが、東証マザーズ指数は15.8%の下落となり、TOPIXを大きくアンダーパフォームしました。

ファクター面では、低リスクシフトが加速しました。米金利上昇に反応してグローバル株式相場が大幅調整となり、日本株市場でもリスク回避の動きが鮮明となりました。ファンダメンタルズベータやボラティリティファクターは6.5%前後のマイナスリターンを記録し、予想配当利回りファクターは4.7%のプラスリターンでした。また、割高株、特に内需株の中における物色動向が変化し、内需割高株から内需割安株への資金シフトが生じ、バリュー優位の展開となりました。しかし、金利上昇にも関わらず割安な金融セクターの銘柄は買われず、割安な外需株も中国の景気減速懸念や円高進展などを受けて避けられるなど、割安株が幅広く買われる相場ではありませんでした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

10月の運用成績はJPYクラスで-0.34%となりました。10月前半はショートの高比率が高い小売株が大幅に上昇したことや、景気減速懸念から好業績の外需関連株が売られたことで、運用成績は悪化しました。10月後半は割高なモメンタム株が相対的に軟調になるなど割高・割安の解消がありパフォーマンスは改善しましたが、前半のマイナスを取り返すには至りませんでした。

セクター別の損益では、不動産、サービス、電機、化学セクターでマイナスとなり、医薬、非鉄、金融、海運セクターでプラスとなりました。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

10月の小型株は大きく売られ、ラッセルスモールインデックスが10.5%と単月で10年ぶりの大きな下落となりました。また、7月から劣位にあったグロース銘柄は、10月に大きく下落することとなり、マザーズ指数も急落しました。

東証2部や新興市場においても、外国人が大きな売り越し主体となっています。

ポートフォリオは、景気敏感株への警戒はあったものの、情報・サービスセクターのオーバーウェイトが、足を引っ張ることとなりました。内需グロース銘柄を多く組み入れているロングポジションに大変厳しい運用環境となりました。

一方、ややグロース銘柄のショートを増やしていたことと、固有要因により上昇するロング銘柄が複数あったことにより、ファンド全体でプラスのパフォーマンスを確保しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

11月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。10月の急落によりバリュエーション面での割安感はあるものの、これまで発表された企業業績は想定以下のものが多く、外部環境の好転が無ければ当面は上値の重い展開が続くと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

第2四半期の決算発表により、比較的堅調であった第1四半期決算からの変化が明らかとなり、既に株式市場で懸念されている外部環境の方向性を確認することとなります。また、業績の不透明感が高い中で、決算内容により大きな株価変動が想定されます。

局地的な高バリュエーションは残るものの、市場全体としてリスク選好的な状況に移行すると思われなため、業績面の安定性を意識した銘柄選択を行います。また、グロース銘柄を楽観視することなく、今後は、むしろ売られた割安景気敏感銘柄の吟味を進め、来期以降の反転を狙いたいと思います。

グロース銘柄については、個性を重視し、ファンド全体としては、情報・サービスセクターを中心としたグロースバイアスを維持します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムディー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**